

今日は、大きく三つお話をします。

一つめは、昨日行った卒業証書授与式についてです。

昨日、三年生のみなさんが卒業しました。緊張感のある、厳粛なすばらしい卒業式でした。在校生からは、生徒会長の林さんと、報道局長の岩崎さんが出席し、林さんは立派な送辞を述べました。

そして、答辞を述べた太田さんから一・二年生のみなさんに、こんなメッセージがありました。「私たちは、楽しい学校生活を送るために、互いを思い合い、高め合う関係を築いてきました。互いを認め合うだけでなく、時には厳しくし合えるような関係をみなさんにも築いていてほしいです。」三年生のみなさんは、仲間とのつながりを強くして、学校生活を楽しく豊かにしましたが、私はこのメッセージに、そうした仲間関係をつくる時に、大切なことが示されていると感じました。

また、加納中学校に学年を越えたつながりをつくったのが、卒業した三年生のみなさんです。一・二年生のみなさんには、この伝統をしっかり引き継いでほしいと思います。

17日には、来年度の前期生徒会役員選挙があります。生徒会活動を軸に、更にすばらしい加納中学校をつくってくれることを期待します。

二つめは、今日、明日からの生活についてです。

今は、個を鍛える時です。一月の全校集会で、私はみなさんに「一人一人が、自分が実現させたい生活を、自分が行動してつくる、そんなことを心がけてはどうか」とお話ししました。そして、自分はこれからどんな生活がしたいのかを考え、そのために自分から行動してほしいとも言いました。学級の解散まで、現状に満足することなく、よりよい生活を求め、そのための変化を自分が行動して実現させてほしいと思います。

三つめは、東日本大震災についてです。

11年前の3月11日に東日本大震災がありました。この11年間に、ハード面の復興は進んだものの、人々の生活が順調に回復しているとは言い難く、福島第一原発の廃炉には、なお30~40年かかると言われています。また、今も2,500人を越える方々の行方が分かっていません。

同じ国に住む者として、自分たちに「何かできることはないか」と考えてみてほしいと思います。例えば、「忘れない」ということは、私たちにもできます。新聞やテレビで特集される震災に関する報道に目を向け、東北がどうなっているのか、それを知ることは、復興を考えることでもあります。そんな時間をつくってほしいと思います。

またそれらの報道を見れば、ロシアのウクライナ侵攻など世界で起きている出来事についても知ることができます。「平和とは何か」もあわせて考えてほしいことです。

この仲間とともに過ごすのも、あと12日となりました。この一年間、あるいは二年間の自分の成長を、心静かにじっくり振り返り、本年度を閉じてほしいと思います。